

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

マルホ皮膚科セミナー

2015年10月15日放送

「第114回日本皮膚科学会総会 ①

会頭講演 「Derma Dream」

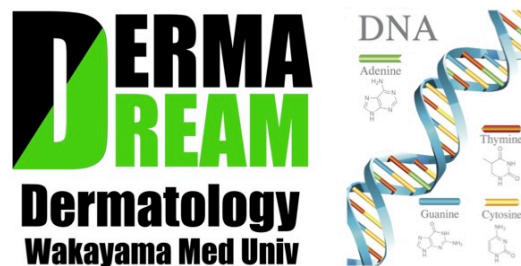
和歌山県立医科大学 皮膚科
教授 古川 福実

はじめに

2015年5月29日から三日間、横浜において第114回日本皮膚科学会総会学術大会を主催させて頂きました。有料参加者は5,408名で、招待、Oneday Pass、スペシャリティナース講習会、市民公開講座参加者を含めると6,743名の総参加者数でした。参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

テーマのDerma Dream「皮膚科の夢」は、和歌山医大皮膚科同門会のテーマロゴです。5つの文字を並べ替えるとdermaがdreamにかわります。教育、臨床、地域医療、研究において、患者、学生、医師、医療関係者、地域住民・国民ひいては世界中すべての人にとって最も大切なことはdreamを持ち実現に向かって努力することです。この思いから、極めてシンプルなこの10文字を学会のテーマに致しました。そのロゴに秘めたものは、学会とはある共通のDNA（伝統、バックグラウンド）をもつ集団なので、「受け継がれ進化するDNA」をモチーフとした「シンプルで清潔感のあるカチッと結束した感じ」にしようということでした。DERMAとDREAMを異なる配色（正統ブラック&爽やかグリーン）で並列してDNAの二本鎖(Double strand)に見立て、二つのDを斜めに重ねて融合することで二重らせん(Double helix)をイメージしました。互いに相補的に対をなすEとR、MとAは塩基配列

DERMAとDREAMを異なる配色で並列してDNAの二本鎖に見立て、二つのDを斜めに重ねて融合することで二重らせんをイメージ。互いに相補的に対をなすEとR、MとAは塩基配列を表す。




を表現しております。MはMedical（臨床）、AはAcademic（研究）、EはEducational（教育）、RはRegional（地域）の象徴と捉え、すべてがDすなわちDermatology（皮膚科学）とDream（夢）へとつながっていきます（和歌山労災病院皮膚科中村部長の力作です）。

この精神がどのくらい学会内容に反映されていたかは、いささか自信がありませんが、学会終了後に弘前大学名誉教授橋本先生から頂いた、「紀の国の俊英の掲ぐ旗印 皮膚科の夢の会に集えり」とのメッセージから、幾分なりとも私の夢は実現できたのではないかと思います。

会頭講演

会頭講演は、私が1980年から5年間在籍した京都大学医学部病理学教室での、皮膚ガンで亡くなった患者の剖検例をベースにして、30年後2015年の現状を語ってみました。当時、夢と描いた治療の一部が実現しつつあるのは、ある意味で楽しい講演でした。また、ライフワークであるループスエリテマトーデスについて振り返ってみました。会頭講演の前日に、ヒドロキシクロロキンの認可が内定したことが分かりました。これも、夢のひとつの実現でした（写真は、若干悪のりした会頭講演のものです。写真左が会頭講演風景、写真右は和歌山医大初代学長古武弥四郎先生とその語録です）。



初代学長
古武弥四郎*

本を読まなくてはならぬ
考えても見ねばならぬ
しかし
凡人は
動かなくてはならぬ
働くとは
天然に親しむことである
天然を見つめることである
かくして
天然が見えるようになる



夢、希望、ゴール、ほら

*門下生・弟子に早石修、故沼正作、孫弟子に本庶佑、中西重忠、成宮周、ひ孫弟子に 梶島健治

講演内容のご紹介

さて、学会の内容に話を移します。

平成27年度日本皮膚科学会皆見省吾記念賞は京都大学／久留米大学の夏秋洋平先生が受賞されました。受賞論文は、2014年にNature Immunology誌に掲載された「血管周囲に形成される白血球クラスターが皮内におけるT細胞の活性化に必須である(Natsuaki Y. et al. Nat Immunol 15(11):1064-9, 2014)」です。長年の炎症性皮膚疾患の解明に寄与し、Derma Dreamにふさわしい内容で、講演もざっくばらん、自由闊達で受賞者が学んだ研究室の学風を感じさせるものでした。おめでとうございます。

土肥記念講演には米国コロラド大学皮膚科教授 David Norris 先生をお招きし、悪性黒色腫の治療の新たな展開と夢を語っていただきました。最近の悪性黒色腫を巡る治療の理解に役立つ内容でした。アレルギー学の碩学 National Jewish Health, Denver の Donald Leung 先生が、アトピー性皮膚炎について最新の話題を講演していただきました。

Derma Dream 特別企画「世界で活躍する日本人医学者からのメッセージ」は好評だったようです。世界で活躍する醍醐味を 3 人の先生に語っていただきました。演者は、小野昌弘 (University College London) 藤田真由美 (University of Colorado) 大津欣也 (King' s College London) の世界で大活躍する日本人医学者でした。企画を担当して下さった、京都大学大学院の椛島健治先生、川崎医科大学の青山裕美先生 (最近、お二人とも教授に昇任されました) に感謝申し上げます (写真右)。



教育講演は、プログラム委員や実行委員の意見を集約し 50 のセッションを設定いたしました。1) 制度に関するセッション、2) 短期的にキャッチアップすべき課題、3) 中長期的に学ぶべき課題の 3 つに分けました。基礎的な内容を、初日に集中させたので、二日目、三日目は、テーマによっては会場に参加者がはいりきれない状況 (大盛況) となりました。



例年好評の実践道場ものは、皮膚病理、ダーモスコピーが有料となりました。新たな企画として皮膚外科道場を設けました (写真右)。皮膚外科の自分のスキルとして日常診療に生かす事を目標と致しました。いずれも申し込み制でしたが、完売でした。

最終日 5 月 31 日の午後に市民公開講座「化粧品の安全性をみんなで考えよう! 2 つの事例から学んだこと」を行いました。【第 1 部加水分解コムギ末の経皮感作によるコムギアレルギーから学んだこと】で、日本アレルギー学会と共催でした。【第 2 部ロドデノール誘発性脱色素斑から学んだこと】では多くの質問がありました。各部とも 500 名をこえる参加者があり、松永佳世子先生、島田眞路先生の名司会のもと、皮膚科医にも分りやすい公開講座でした。企画から実現まで、藤田保健衛生大学の松永教授が中心となっていただきました。日本皮膚科学会で、市民公開講座を行うことはあまり前例がないようですが、実施してよかったと思っております。

市民公開講座

化粧品を安全に使うには ~ 2 つの化粧品健康被害から学んだこと ~

2015年5月31日
土曜 13:20~16:30
13:00開場

パネリスト メインホスト

パネリスト 島田眞路 (京都大学大学院医学部皮膚科) / 松永佳世子 (京都大学大学院医学部皮膚科)
メインホスト 青山裕美 (川崎医科大学皮膚科)

講演内容

第1部 加水分解コムギ末による経皮感作性コムギアレルギーから学んだこと

1. 加水分解コムギ末による経皮感作性アレルギーのメカニズム

2. 加水分解コムギ末によるアレルギー性皮膚炎の診断

3. 加水分解コムギ末によるアレルギー性皮膚炎の治療

第2部 ロドデノール誘発性脱色素斑から学んだこと

1. ロドデノール誘発性脱色素斑のメカニズム

2. ロドデノール誘発性脱色素斑の診断

3. ロドデノール誘発性脱色素斑の治療

事前登録不要
入場無料
定員 600名

お申し込みはぜひお電話ください

お申し込み先
 京都府立総合医療センター 健康推進課
 〒604-8501 京都府京都市東山区宇治橋1-1-1
 TEL: 075-853-3111 (受付時間: 9:00~17:00)

おわりに

この学会には、和歌山医大の学生さんが7名参加してくれました。皆さんまじめに勉強したようです。皆さんから感想文をもらっておりますが、そのうちの一人の印象記の一部です。「皮膚科としては日本で最も大きい学会であり、多数の講演を聞くことができ大変勉強になりました。スペシャリスト達が集い意見を交わし合う姿を見て、医学の発展の過程を垣間見ることができただけでなく、先生方が講演をする姿を見て自分も将来このような大きな学会でプレゼンをしてみたいとも感じました。先生方の講演のどれもが、皮膚科への興味・好奇心をかりたてられるものでした。」(写真右上)

危機管理の面からは、懇親会の真っ最中に(5月30日 20時23分頃)、小笠原諸島西方沖を震源とするM8.1(8.5から修正)、震度4(横浜)の大きな地震が occurred。近大マグロもびっくりです(写真右)が、今後、危機管理の面から日本皮膚科学会として対策対応が必要です。

おまけですが、公式行事で国際皮膚科連合(ILDS)の授賞式を忘れていた恩師 瀧川先生の授賞式を、急遽 会長招宴会でおこないました(写真、左 瀧川教授 右 宮地理事)。

第114回から、学会運営は公益社団法人日本皮膚科学会が担当致しました。学会運営を円滑に進めていただいた総会担当の山田、山本さん、何回も横浜と和歌山を往復していただいた山本事務局長、演題・アブストラクト賞などに尽力して頂いた金澤実行委員長をはじめ、和歌山県立医科大学皮膚科の諸君と和歌山県皮膚科医会(会長 宮崎孝夫先生)に御礼を申し上げます。

